

◆ 2023 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：氷川ほたるの会

26A-42

代表者：会長 東角井 真臣

URL : <https://hikawa-hotaru.com/>

1. 活動が必要とされた状況

平成 27 年発足以降、当会は、多くの方のご寄付より、①ほたるが復活する環境改善、②地域への還元事業としての観賞会等を開催してきました。当会は、①に一定の成果を出し、②の観賞会にて自生したほたるを観賞していただくため、埼玉県水環境課協力のもと地道に環境改善活動を行ってきました。現地である武蔵一宮氷川神社が創建 2500 年を迎える 4 年後の 6 月には、自生したほたるを観賞してもらいたいとのことから、専門家（水質・昆虫分野の博士 2 名）との協議の結果、土壌改善と造成工事が必要になりました。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

環境基金に採択されたことをきっかけに、ほたる池周辺から蛇の池にかけての改良造成工事が決まりました。毎月定例の役員会（約 10 名）でも環境改善計画策定に関するスピードアップを図りました。その他の活動では、役員による各自宅でのカワニナ育成（約 7 名）、専門家との造成計画ローリング（約 10 名）、年 4 回の定点調査（10 名～20 名）、12 月と 3 月に、災害時の炊き出し訓練等も兼ねた大規模清掃活動（ボランティア 70 名～100 名）を実施することができ、3 月より造成工事（2 月 28 日現在）が施工される運びとなりました。

3. 活動の成果

環境改善環境改善工事による具体的成果には時間が必要ですが、環境基金の採択を受け、氷川神社を含めた協力者が増えて活発になり、ほたるの育成に適した環境への改善ができる目途が立ちつつあります。通年でのカワニナの調査でも、幼貝から親貝までを確認できており、池の中でカワニナが自生する環境までは辿り着くことができております。

4. 今後に残された課題

現状、育成活動と造成工事を平行して進めざるを得ず、水質やカワニナの環境調査にて影響を確認しながらの環境整備なので、時間をかけ、資金を募りながら進めていくことしかできていません。今回の工事で全体の約 1/4、水源から池の一部にかけての工事ができますが、池の残り半面と蛇の池へ続くせせらぎの工事が残っています。カワニナの自生が確認できるものの、ほたるの自生を確認できておりません。今年 9 月からの第二期造園工事では、ほたるの自生に向け池の周囲の植物等も同時に見直していきます。今回の工以降、専門家と協議を勧めながら 4 年後の 6 月開催予定の創建 2500 年記念観賞会まで、注意深い観察と抜本的な環境改善を進めていかなければなりません。

